

食育学生ボランティア養成講座

- 大阪市の栄養バランスに配慮した食生活を実践している若い世代の割合は、「令和4年度意識調査（農林水産省）」の結果28.4%に比べ、22.1%と低い状況となっている。
- 従来より、若い世代に対する「栄養バランスに配慮した食生活の実践」については、大学キャンパス内等でのイベントの中で啓発してきたが、学生が継続的に参加できる講座がなかった。
- 令和2年度より、大阪市立大学（現大阪公立大学）と連携して授業の一環としてリモート形式での講座を行い、令和5年度からは新たに市内の他大学にも枠を広げて、大阪市食育学生ボランティア養成講座を実施し、広く参加者を募ることにより、より多くのボランティア養成を図ることができた。

大阪府

（大阪市）



【取組の内容】

○ 大阪市食育学生ボランティア養成講座

市内の管理栄養士養成コースがある大学の学生に対して、大阪市健康局栄養士と保健師が講師となり、リモートによる講座を実施した。

講義だけではなく、調理実習等の演習や大学生自身が認識している健康や食にまつわる課題と、自らが実現可能な対応策をレポートにまとめてもらうことで、理解の醸成を図った。

また、レポートの内容を踏まえたリーフレットを作成した。

（開催期間）令和6年6月～令和7年2月

（開催方法）オンライン、演習、課題レポート

（受講者）大学生63人

○ ボランティア活動支援

養成講座修了生に対し、市が行うイベント等にボランティアとして従事するよう働きかけを行い、ボランティア活動にむけた支援を行った。



（食育イベント活動）



（近鉄（縁活）コラボ調理実習）

【取組の成果】

- いつでも講座に参加できるようにオンラインを活用したことで、活用前と比べて受講生が1.5倍の増加につながった。
- 食育講座に使用するリーフレット等について、課題レポートの内容を踏まえる等、作成に参画してもらったことにより、若い世代の視点に立った内容となり同世代の市民への啓発効果に繋がった。
- 令和6年度は、「ワクワクEXPO with 第19回食育推進全国大会」が大阪で開催され、イベントへの従事者が、前年に比べて2倍以上となり食育ボランティア活動支援の拡充に繋がった。

【事業の目標】

- ① 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合

事業実施前 66.3%

→事業実施後 80.4%

- ② 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

事業実施前 61.0%

→事業実施後 80.4%

